

緑内障点眼治療

—ご存じですか？ 患者さんの使用実態—

日時

2023年10月6日(金) 12:20 ~ 13:20

会場

第11会場(東京国際フォーラム ガラス棟 4F G409)

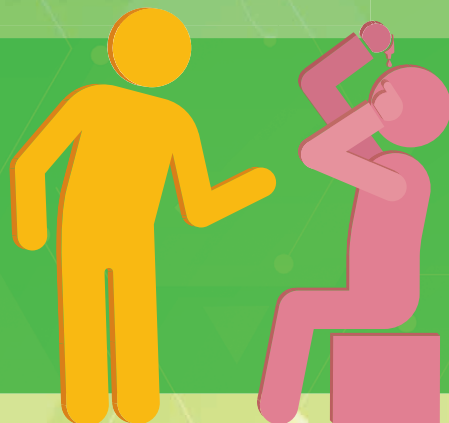
オンデマンド配信

2023年10月23日(月) ~ 11月22日(水) 予定

本ランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所：東京国際フォーラム 地下1F ロビーギャラリー

配布日時：10月6日(金) 7:30 ~ 11:50



座長

本庄 恵先生
東京大学

緑内障は慢性進行性の疾患で自覚症状がないことが多いため、緑内障治療の成否に関わるアドヒアランスは医師が思っている以上に悪く、正しく点眼できていないことがわかっています。アドヒアランスが悪いと処方した点眼薬の効果が十分発揮されず、副作用が増加する原因となる場合もあります。アドヒアランス不良の原因は多岐にわたり、改善することは容易ではありませんが、自己点眼治療に頼る緑内障治療では「点眼指導」が大切です。

そこで今回のセミナーでは、緑内障診療の最前線で活躍されている二人の専門家をお招きし、アドヒアランスを改善する鍵でありながら、意外と見落とされがちな「点眼指導」の重要性とその方法について、あらためて考えてみたいと思います。

明日からの診療にお役立ていただける実践的な内容のセミナーですので、ぜひご参加ください。

講演①

知られざる緑内障患者の点眼実態

溝上 志朗 先生 愛媛大学



講演②

緑内障点眼薬の正しい使い方を知ろう —点眼指導の重要性—

井上 賢治 先生 井上眼科病院



緑内障点眼治療

—ご存じですか？ 患者さんの使用実態—

日時 2023年10月6日(金) 12:20 ~ 13:20

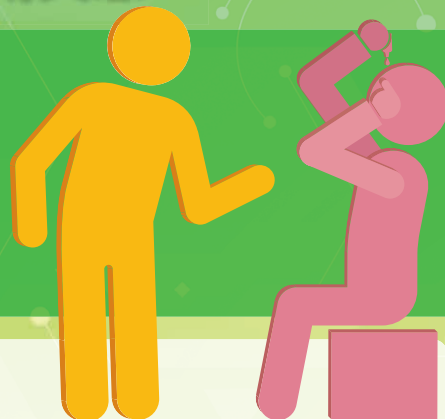
会場 第11会場 (東京国際フォーラム ガラス棟 4F G409)

オンデマンド配信 2023年10月23日(月) ~ 11月22日(水) 予定

本ランチョンセミナーは整理券制です。

配布場所: 東京国際フォーラム 地下1F ロビーギャラリー

配布日時: 10月6日(金) 7:30 ~ 11:50



座長 本庄 恵先生 東京大学

【略歴】 1995年 京都大学医学部 卒業
2001年 京都大学大学院医学研究科 修了
京都大学視覚病態学 助手
2004年 北野病院眼科 副部長
2006年 京都大学視覚病態学 助教
2007年 東京都健康長寿医療センター
2015年 東京大学医学部 眼科学教室 講師
2019年 東京大学医学部 眼科学教室 准教授



講演① 知られざる緑内障患者の点眼実態
溝上 志朗先生 愛媛大学

【略歴】 1995年 愛媛大学医学部 卒業
1996年 大阪厚生年金病院 眼科医員
2005年 愛媛大学医学部大学院 修了
愛媛大学医学部 眼科助手
2009年 愛媛大学大学院医学系研究科 視機能外科学 講師
2012年 愛媛大学大学院医学系研究科 視機能再生学講座 准教授
2020年 愛媛大学大学院医学系研究科 眼科学講座 准教授

緑内障治療薬にかかわらず、すべての点眼薬は薬液が眼表面に到達することで薬理作用を発揮する。当然ではあるが、点眼薬は点眼容器に入っているため、患者には自身で点眼容器を開封し、点眼液を眼表面に滴下するという操作が求められる。しかしながら、我々の調査では適切な点眼操作ができていない緑内障患者は予想していたよりも少ないという実態が明らかになった。点眼失敗例としては、点眼ノズルの先端が眼表面や眼瞼、睫毛に接触したり、鼻根部や頬部など眼表面以外に滴下したりする症例が多く、若年者よりも高齢者でその傾向が顕著だった。そして、その原因としては緑内障患者特有の事情があることも示唆された。本講演では緑内障患者の点眼実態調査で明らかになった問題点を整理し、その解決策について考えてみたい。



講演② 緑内障点眼薬の正しい使い方を知ろう
—点眼指導の重要性—
井上 賢治先生 井上眼科病院

【略歴】 1993年 千葉大学医学部 卒業
東京大学医学部眼科学教室 入局
1998年 東京大学医学部大学院 修了
2002年 医療法人社団済安堂 井上眼科病院
2006年 医療法人社団済安堂 井上眼科病院 副院長
医療法人社団済安堂 お茶の水・井上眼科クリニック 院長
2008年 医療法人社団済安堂 理事長
2012年 医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長

緑内障に対するエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は眼圧下降であり、点眼薬治療が通常ファーストチョイスである。眼科医は点眼薬を処方すると患者はきちんと点眼していると思っているが、患者のアドヒアランスは眼科医が想像するより悪いものである。アドヒアランスを向上させる方法のひとつとして、正しい点眼手技があげられる。そこで井上眼科病院では、緑内障点眼薬における点眼容器の微生物汚染調査を行い、点眼が正しく行われているかを調査した。その際に、キャップ、ノズル、内液の全てに常在菌汚染が確認された患者を対象として、薬剤師による点眼指導を行い、その前後に点眼手技をVTRで記録した。その結果、点眼手技の改善および点眼容器の常在菌汚染が消失し、点眼指導の有効性は示されたが、一方で、点眼指導を繰り返し実施する必要があり、それをいつ誰が担当のかなど解決すべき課題はまだある。本講演では正しい点眼手技の重要性と緑内障患者への有効的な点眼指導について解説する。